Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

いのちとくらしをまもる 防 災 減 災

令和3年3月30日 九州地方整備局 筑後川河川事務所

『筑後川水系流域治水プロジェクト』『矢部川水系流域治水プロジェクト』 を公表します!

~近年洪水が頻発する筑後川・矢部川流域全体での治水対策~

「流域治水」に関する地域での取組を推進するため、河川整備に加え、流域のあらゆる関係者が協働して行う対策も含めた治水対策の全体像を「流域治水プロジェクト」としてとりまとめたものを公表します。

<概要>

近年、全国各地で豪雨災害が激甚化・頻発化しており、流域全体を俯瞰し、国、流域自治体、企業等のあらゆる関係者が協働して取り組む治水対策「流域治水」を推進していくことが必要です。

このため、あらゆる関係機関が参画する流域治水協議会を立ち上げ、関係機関が協働して流域治水プロジェクトの策定に向けて協議を進めて参りました。

本日、筑後川水系・矢部川水系において、流域治水プロジェクトを公表します。

本水系における流域治水協議会に関する情報は、以下のページに掲載しております。

【筑後川流域治水協議会】【矢部川流域治水協議会】

http://www.qsr.mlit.go.jp/chikugo/bousai/ryuikichisuikyougikai/index.html

【問い合わせ先】

筑後川河川事務所 技術副所長 志賀 三智(内線205)

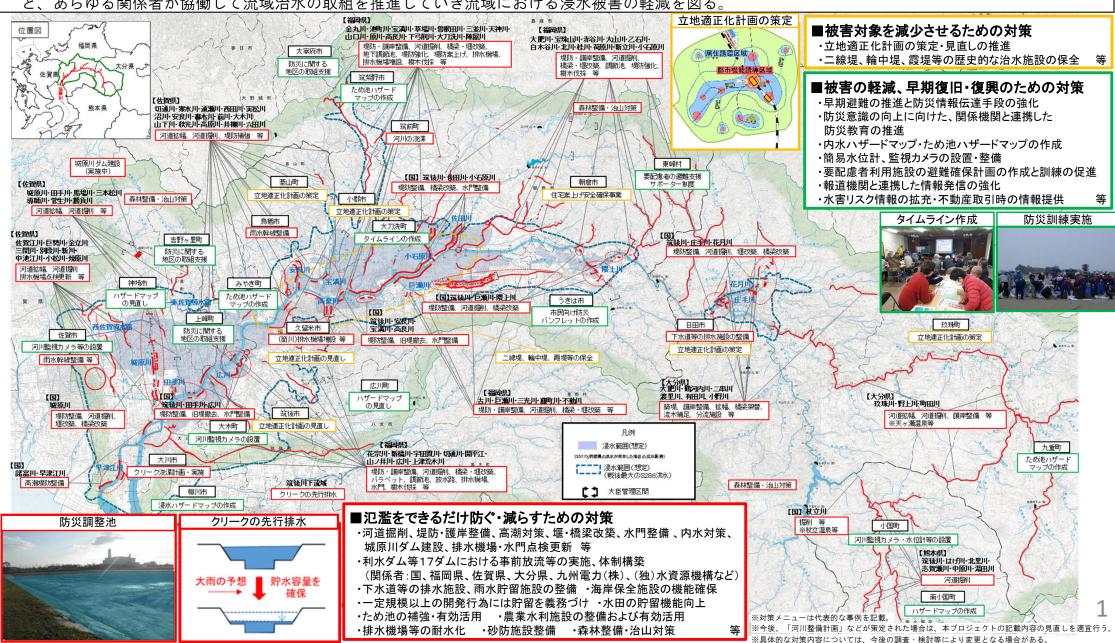
調査課長 田脇 康信(内線351)

電話 0942-33-9131 (代表)

筑後川水系流域治水プロジェクト【位置図】

~日本三大暴れ川の筑後川における抜本的な治水対策及び流域が一体となった防災・減災対策~

○令和元年東日本台風では、戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、筑後川水系においても事前防災対策を進める。筑後川水系は広大な低平地である筑紫平野を有し、河川沿いには人口や資産が集中している。洪水が起こると大きな被害が発生するという流域の特性を踏まえて、河道掘削や堤防·護岸整備などを実施していくことで、流域内戦後最大の昭和28年6月洪水と同規模の洪水に対して本川の堤防からの越水を回避するなど、あらゆる関係者が協働して流域治水の取組を推進していき流域における浸水被害の軽減を図る。



筑後川水系流域治水プロジェクト【ロードマップ】

~日本三大暴れ川の筑後川における抜本的な治水対策及び流域が一体となった防災・減災対策~

○筑後川では、上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、国、県、市町村が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進する。

【短期】 安全度の低い箇所の整備を優先的に実施。大雨が予想される場合に、ため池や水路の先行排水を行うことで流出抑制に取り組んでいく。 利水ダム等による事前放流体制の構築を完了させる。

【中期】 上下流本支川バランスを考慮しながら、治水対策を進めるとともに、流域内の土砂災害、森林整備及び治山対策等を進める。

エー 流体スパバックスとう感じながり、相外対象と進めることでは、流物内の上の大台、林体を構成し相当対象等を表 あれ幹組み時の拡張の数据を行うことで内水地宇軽減に取り組む

雨水幹線や貯留施設の整備を行うことで内水被害軽減に取り組む。

【中長期】 流域内の氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策を進め、流域内の安全度向上、継続的な施設保全を図る。 防災教育の実施や自主防災組織の活動支援を継続的に行っていく。

土地利用・住まい方の工夫について検討を行い、流域における防災・減災対策を推進する。

■河川対策 (約3448億円)

■砂防対策 (約201億円)

■下水道対策(約201億円)

■海岸対策 (約15億円)

区分	対策内容	実施主体	工程			
			短期	中期	中長期	-
氾濫を出来るだけ防ぐ 減らすための対策	洪水氾濫対策	筑後川河川事務所 福岡県·佐賀県·熊本県·大分県 佐賀河川事務所 等	下流部・市街部の整 株光排水機場増設	城原川ダムの建設	流部・上流部の整備	<u> </u>
	内水氾濫対策	筑後川河川事務所 福岡県・久留米市・小郡市・佐賀市 等	(筑後川河川事務所・福岡県・久留米市)	内水対策事業・計画 等		
	高潮•津波対策	筑後川河川事務所	S60台風規模	の高潮対策		
	砂防対策	筑後川河川事務所 佐賀県·大分県·朝倉市	砂防関係施設の整備 ^{九州北部緊急治水対策事業完了} (⁽⁽⁾⁾ (⁽⁾⁾		「 気候変動を踏まえ ₄ 気候変動を踏まえ ₄	
	下水道対策	久留米市・小郡市・佐賀市・鳥栖市・日田市				
	海岸対策	佐賀県		海岸保全施設の老朽化対策		対動、
	森林整備、治山対策	福岡森林管理署・佐賀森林管理署・熊本森林管理署・大分西部森林管理署・大分森林管理署・福岡県・佐賀県・熊本県・大分県・森林整備センター九州整備局	治山事業の実	施・森林整備事業の実施・水源林	造成事業の実施	- ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** **
	流水の貯留機能の拡大	筑後川河川事務所・筑後川ダム統合管理事務所 福岡県・佐賀県・大分県・水資源機構 筑紫野市・朝倉市・広川町・鳥栖市・日田市・九重町 等	利水ダム等による事前放流体制構築			進え <i>'</i>
	流域の雨水貯留機能の拡大	福岡県・佐賀県・熊本県・大分県・各市町村	農業水利施設の整備・有意	│ 効活用、ため池の補強・有効活用 ┃	、水田の貯留機能向上 等	11 /
被害対象を減少させるための対策	水災害ハザードエリアにおける 土地利用・住まい方の工夫	久留米市・筑後市・小郡市・朝倉市・鳥栖市・基山町・日 田市・玖珠町・(福岡県)・(佐賀県)・(大分県)		 立地適正化計画の策定・見直し ⁽ 	等	/
	浸水範囲の限定 氾濫水の制御	筑後川河川事務所	防災指針の策定 (久留米市)	歴史的な治水施設の保全		· //
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	土地の水災害リスク情報の充 実	筑後川河川事務所 福岡県・佐賀県・熊本県・大分県・各市町村	水位計・河川監視カメラ等の設置、浸			-
	あらゆる機会を活用した水災害 リスク情報の提供	筑後川河川事務所 福岡県・佐賀県・熊本県・大分県・各市町村	内水ハザードマップの作成・更新 (久留米市・佐賀市・日田市)	 防災教育・出前講座等の実施 等 	F	な事例を記載。 ※スケジュールは今後の
	避難体制等の強化	筑後川河川事務所 福岡県·佐賀県·熊本県·大分県·各市町村	連絡体制の構築等	自主防災組織の	設立·活動支援 等	事業進捗によって変更 2 となる場合がある。

矢部川水系流域治水プロジェクト【位置図】

~近年出水で大きな被害を受けた矢部川における抜本的な治水対策及び流域が一体となった防災・減災対策~

○令和元年東日本台風では、戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、矢部川水系においても事前防災対策を進める。干満差が日 本一大きい有明海に注ぎ、下流部では低平地が広がり水害の被害に遭いやすいという流域の特性を踏まえて、河道整備などを進めることで、戦後最大の 平成24年7月洪水と同規模の洪水に対して本川の堤防からの越水を回避するなど、あらゆる関係者が協働して流域治水の取組を推進していき流域におけ る浸水被害の軽減を図る。 ■氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策 クリークの先行排水 森林整備 ·河道掘削、堤防·護岸整備、高潮対策、堰·橋梁改築、水門整備等 ・農業水利施設の整備・有効活用・ため池の補強・有効活用 福岡県 水田の貯留機能向上下水道等の排水施設の整備 ・利水ダム等2ダムにおける事前放流等の実施、体制構築 (関係者:福岡県など) •森林整備、治山対策 立地滴正化計画の見直し 大分県 土奏ステーションの設置 ■被害対象を減少させるための対策 ・立地適正化計画の策定・見直し 二線堤等の歴史的な治水施設の保全 立地適正化計画の策定 ←星野川 洗堀対策 等 八女市 樋門・樋管の整備 クリーク浚渫計画・実施 立地適正化計画の策定 可搬式排水ボンブの 河川監視カメラの設置 立地適正化計画の見直し 排水訓練を実施 ため池ハザードマップの作成 水位計設置 森林整備・治山対策 堤防強化 等 ダムの事前放流 堤防整備 ■被害の軽減、早期復旧・復興のための対策 ・早期避難の推進と防災情報伝達手段の強化 堤防・護岸整備、河道掘削、橋梁改築、高潮対策、水門整備 排水機場の整備・更新 ・防災意識の向上に向けた、関係機関と連携した防災教育の推進 (引堤) ・内水ハザードマップ・ため池ハザードマップの作成 河道掘削 浸水ハザードマップの作成 みやま市 橋梁架替 ・簡易水位計、監視カメラの設置・整備 下水道等の排水施設の整備 橋梁架替 防災ステーションの整備 矢部川下流域 冠水地域との意見交換会実施 クリークの先行排水 凡例 防災訓練実施 防災ステーション整備 浸水節囲(想定) 堤防整備 (S28.6と同規模の洪水が発生した場合の浸水範囲 河道掘削 等 高潮対策 浸水範囲(想定) (戦後最大のH24.7と同規模の洪水が発生した場合 水門整備(楠田川) 堤防·護岸整備、河道掘削、橋梁改築 等 二線堤の保全 ▶ ★臣管理区間 堤防・護岸整備、河道掘削、堰・橋梁改築 等

※今後、「河川整備計画」などが策定された場合は、本プロジェクトの記載内容の見直しを適宜行う。

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

矢部川水系流域治水プロジェクト【ロードマップ】

~近年出水で大きな被害を受けた矢部川における抜本的な治水対策及び流域が一体となった防災・減災対策~

○矢部川では、上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、国、県、市町が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進する。

【短期】治水上安全度の低い箇所の整備を優先的に実施。国直轄区間では本川下流より整備を実施。大雨が予想される場合に、

クリーク等の先行排水を行うことで流出抑制に取り組む。利水ダム等による事前放流体制の構築や防災ステーションの整備を完了させる。

【中長期】堤防・護岸整備、河道掘削、堰・橋梁の改築等を進めていき、流域全体の安全度向上を図る。 国直轄区間では支川の整備を進めていく。

防災教育等の実施や自主防災組織の活動支援を継続的に行っていき、流域における、防災・減災対策を推進する。┃■海岸対策

■河川対策 (約373億円)

■下水道対策(約11億円)

毎岸対策 (約25億円)

